

リフレクションシート

事例1 ① (導入～発症日の特定まで)

導入のポイント

今回の患者は、陽性であることがわかり、とてもショックを受けている事例として演じてもらっていました。患者の心情・体調を確認した上で、調査に要する時間を伝え、調査が実施可能であることを患者と共に確認しましょう。患者にとっては、陽性であることを告げられ、不安やショックを受けているタイミングです。まずは、現在の心情・体調を配慮する声掛けをしていくことが、短い調査の間での信頼関係構築のカギとなります。

気づいたこと、考えたこと、自己の課題等について記載してください

症状の確認のポイント

症状が出現した日、症状の程度、症状の経過、症状発生から現在までの内服状況等の対応の内容について、聞き取った上で、年齢・既往歴も考慮し、現在の体調のアセスメントと今後の予測をしましょう。今回の事例は、発生届と変わらず、軽症であると判断できると思います。

気づいたこと、考えたこと、自己の課題等について記載してください

発症日の特定のポイント

今回の事例では、発症日をX-5日として設定しています。発生届に記載されている発症日と症状が出現した日が異なる場合もあります。その場合は、どちらが発症日であるかを保健所職員に相談して決定するようにしましょう。症状の出現した日にち、曜日、症状の内容などを確実に確認して、相談できるようにしておきましょう。

気づいたこと、考えたこと、自己の課題等について記載してください

事例1 ② (濃厚接触者の特定～保健指導・終了まで)

濃厚接触者の特定のポイント

今回の事例では、濃厚接触者は赤坂厚子さんと他の合唱部員18名、両親、弟と設定しています。今回のように学校である場合には、学校での1日の流れ、昼食の状況、部活動・サークルの所属の有無、授業や部活動・サークルで過ごしている場所の広さ・一緒に過ごす人の人数・換気状況・マスクの着用状況、学校での体調不良者の有無、学校で行動を共にすることが多かった人の有無などを確認することが必要です。濃厚接触者の特定は判断に迷う場合も多いため、その都度保健所職員に相談するようにしましょう。

気づいたこと、考えたこと、自己の課題等について記載してください

クラスターの早期探知のポイント

今回は、事例の設定では、X-9日に会った大門圭子さんからの感染であるとして作成しました。感染源を推定することで、今後の感染拡大の広がりや予測ができ、対策が講じやすくなります。場合によっては、大門圭子さんの所属する高校でも、感染が広がっているかもしれないという視点を持って、クラスターの早期探知を意識しましょう。

気づいたこと、考えたこと、自己の課題等について記載してください

保健指導・終了のポイント

現在、自宅で過ごしていますので、家庭内感染の予防についての保健指導を行うことが重要です。まずは、患者本人が実施している対策を確認した上で、実施できている点はこちらからも肯定的に評価し、そのまま続けてもらうように伝え、不足している点は、一緒に感染予防方法を考えましょう。その際には、自宅の間取りなどの家屋状況を確認することも必要になります。まずは、1人で過ごせる場所があるのかを確認することが大切になります。また、共用部分の使い方についても「家庭内にご注意いただきたいこと～8つにポイント～」などを活用して、一緒に確認するとよいでしょう。

今回は、患者の母が体調不良となっていました。その場合は、現在無症状の父や弟と母も接触を最低限にできるように、方法を考えられるといいです。

また、最後に患者本人が今不安に思っていることや気になることを確認することや、今後相談したいことがあったり、体調が悪くなったりした際の連絡先を伝えておくことも必要です。

気づいたこと、考えたこと、自己の課題等について記載してください

事例2 ① (導入～発症日の特定まで)

導入のポイント

今回の患者は、当初は調査で自分のことを話すことをためらうという設定で演じてもらっていました。その際、患者に対して、調査の目的を明瞭に説明できていましたか。調査は、調査者と患者の信頼関係の上に成り立つものです。目的を互いが共有できていなければ「何のために聞かれているのか？」という疑念が生まれ、不信感のもとになることもあるでしょう。積極的疫学調査の第一義的な目的は、感染拡大の防止であり、そのために所属やこれまでの行動歴を伺っていることを伝え、それが今後の対策を講じる上で重要な情報であることを共有できるようにしましょう。

信頼関係を構築する上では、導入の時点で、個人情報保護を徹底することを伝えておくことも必要です。具体的な一例を記載します。「〇〇さん自身の情報は、調査で伺った他の方々の情報は外部には一切漏れないようにしますし、調査で伺った他の方々に〇〇さんの許可なく連絡することはありませんので、ご安心ください」。もちろん調査で得た情報は、たとえ家族等であっても、保健所職員以外に話すことは禁止です。

気づいたこと、考えたこと、自己の課題等について記載してください

症状の確認のポイント

症状が出現した日、症状の程度、症状の経過、症状発生から現在までの内服状況等の対応の内容について、聞き取った上で、年齢・既往歴も考慮し、現在の体調のアセスメントと今後の予測をしましょう。今回の事例は、発生届と変わらず、軽症であると判断できると思います。

気づいたこと、考えたこと、自己の課題等について記載してください

発症日の特定のポイント

今回の事例では、発症日をX-4日として設定しています。症状の出現した日にち、曜日、症状の内容などを確実に確認しましょう。発症日が濃厚接触者の特定や、療養期間の決定などの基準となりますので、大変重要になります。患者から聞き取る際には、想定される症状をこちらから具体的に伝えた上で、それらの症状がなかったのかも確認するとよいです。

気づいたこと、考えたこと、自己の課題等について記載してください

事例2 ② (濃厚接触者の特定～保健指導・終了まで)

濃厚接触者の特定のポイント

今回の事例では、濃厚接触者は稲毛ゆうこさんと船橋さちこさん、そして両親として設定しています。

今回のように患者の所属が学校である場合には、学校での1日の流れ、昼食の状況、部活動・サークルの所属の有無、授業や部活動・サークルで過ごしている場所の広さ・一緒に過ごす人の人数・換気状況・マスクの着用状況、学校での体調不良者の有無、学校で行動を共にすることが多かった人の有無などを確認するようにしましょう。濃厚接触者の特定は判断に迷う場合も多いため、その都度保健所職員に相談するようにしましょう。

濃厚接触者のうち、特に稲毛さん、船橋さんが陽性となれば、看護学部内での感染拡大の危険性も高くなるでしょう。

気づいたこと、考えたこと、自己の課題等について記載してください

クラスターの早期探知のポイント

今回は、事例の設定では、X-10日に会った渋谷ともこさんからの感染であるとして作成しました。感染源を推定することで、今後の感染拡大の広がりや予測ができ、対策が講じやすくなります。場合によっては、渋谷ともこさんの所属する学部でも、感染が広がっているかもしれないという視点を持つことも必要になります。そのためには、感染源と思われる場にいた人の情報を伺っておくことが大切になってきます。

気づいたこと、考えたこと、自己の課題等について記載してください

保健指導・終了のポイント

今回の事例の父(杉並よしお)は、糖尿病の既往歴がありました。家庭内感染を防ぐためには、個室で過ごす、共用物品を消毒するなどの対応が必要ですが、主に本人をケアする人(配膳・下膳、ゴミの処理、洗濯など)は、既往歴がない人にしてもらおうなどの工夫も必要になります。

また、最後に患者本人が今不安に思っていることや気になることを確認することや、今後相談したいことがあったり、体調が悪くなったりした際の連絡先を伝えておくことも重要です。

気づいたこと、考えたこと、自己の課題等について記載してください